株主通信 冬号

2018年4月1日～2018年9月30日
（第40期第2四半期連結累計期間）

代表取締役社長
秋川 正

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、
厚くお礼申し上げます。さて、当社第40期第2四半期連結累計期間
（2018年4月1日から2018年9月30日まで）の事業の状況につきまして、
ご報告申しあげます。

Q まずは、今回から同封してある秋川牧園のたよりについてお聞かせください。

秋川牧園では、私たちの食を食べてくださる消費者の皆様との関係づくりを重視しています。秋川牧園では日々どんな取り組みをしているのか？生産の現場でどんなことが起きているのか？それらをお伝えする方法の一つとして、会社のたよりを年4回発行しています。本来は株主様向けに作成したものではないのですが、株主の皆様にも、普段着の秋川牧園のことも知っていただければと考え、今回から同封させていただくことにいたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

Q 当期の上半期までの連結業績についてお聞かせください。

まず売上ですが、対前年の伸び率は3.7％となりました。通販事業を行う会社様向けの販売が大幅に減少してしまったのですが、主力の鶏肉と冷凍加工食品が好調で、トータルではまずまずの伸びとなりました。

一方、利益面ではマイナス要因が多く発生しました。特に厳しかったのが、飼料価格が値上がりしたことと、若鶏及び鶏卵農場での生産成績が低迷したことです。その後、飼料価格は10月からは下げに転じ、生産面も技術的な対策の効果が現れて、直近では順調な状態に戻っています。当社の製品は10月から12月にかけて一番の需要期になりますので、しっかり生産し、しっかり販売していこうと努力しているところです。

業績の推移

鶏肉及び冷凍加工食品の販売が好調に推移し、売上高は増加。
しかしながら飼料価格の値上がりや、若鶏の生産成績の低下により減益に。

業績ハイライト(第2四半期連結累計期間)

	第37期 ('15.4～'15.9)	第38期 ('16.4～'16.9)	第39期 ('17.4～'17.9)	第40期 ('18.4～'18.9)
売上高 (百万円)	2,414	2,573	2,605	**2,700**
営業利益 (百万円)	△16	69	11	**△11**
経常利益 (百万円)	△18	73	42	**△2**
四半期純利益 (百万円)	△30	50	21	**△22**
1株当たり四半期純利益(円)	△7.38	12.01	5.10	**△5.40**
総資産 (百万円)	4,142	4,102	4,677	**4,922**
純資産 (百万円)	1,326	1,435	1,500	**1,554**

Q 春から稼働が始まった 冷凍食品の第３工場の様子はいかがですか？

年々増加する冷凍加工食品の需要に対応するために建設した第3工場ですが、おかげ様で順調な稼働となっています。この工場で特に強化したのが焼きラインですが、この夏は焼き鳥の売上が大きく伸びました。また、8月からはサラダチキンの製造が始まりましたが、こちらも好評で、今後、大型商品に育成していきたいと思っています。
一方で、秋川牧園もご多分にもれず人手不足の傾向にあります。この間も機械化投資を行ってきましたが、引き続き投資を行い、生産性の向上に努めることが重要だと考えています。

会社の概況(平成30年9月30日現在)

本社所在地	山口県山口市仁保下郷317番地
設立	昭和54年5月25日
資本金	7億1千4百15万円
従業員	204名(グループ合計 269名) 臨時社員及びパート社員を除く
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)

事業所

本社及び工場	山口県山口市仁保下郷317番地
大阪事業所	大阪府茨木市太田1-1-25

役員

代表取締役会長	秋川 實
代表取締役社長	秋川 正
取締役	甲斐 利光
取締役	田村 次郎
常勤監査役	徳光 隆司
社外監査役	佐田 源一
社外監査役	江藤 龍夫